

# 新型インフルエンザに備えて 2008年度 役職員研修会開催

大分県生協連に加盟する、県下12生協の役職員の代表70名が参加して、「役職員研修会」が11月28日(金)、大分市の全労済会館ソレイユにて開催しました。

研修会はず、大分県学校生活協同組合の高瀬宏一さんが総合司会となって始まり、主催者を代表して足立県生協連会長が「世界の金融危機やサブプライムローン問題での不況は、日本にも影響がきており、生協も同様である。生協法も大幅な改正が行われ、厳しさは増すばかりであるが困難を乗り越えてがんばろう。今回の研修は新型インフルエンザであり、生協としても対応しなければならない課題であることから取り上げました。」とあいさつがありました。



引き続き来賓のあいさつで、大分県生活環境部部長の宇都宮鉄男氏は、「生協の行政に対する協力に感謝し、行政と生協が目指す課題は同じように思う。県としては、①食の安全では輸入食品の検査の強化、②レジ袋の削減、③危機管理、④アイネス・男女共同の充実を図ることになっている。」続いて大分県労働者福祉協議会事務局長の諸富幹夫氏、大分県議会議員の小野弘利氏からあいさつがあり、大分県議会議員の酒井喜親氏と大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課県民生活班主任の関寛朗氏が紹介されました。

講演は、大分県福祉保健部健康対策課疾病対策・危機管理班参事の井上昭二氏から、「事業者の新型インフルエンザ対策」と題して講演されました。

講演の内容は、①次に発生が懸念される新型インフルエンザは？、②鳥インフルエンザから新型インフルエンザへ、③新型インフルエンザの発生はいつ？、④新型インフルエンザと災害の違い、⑤新型インフルエンザ対策、⑥海外発生時の対策と県内発生時の対応、⑦飛沫予防策、⑧従業員や利用客への感染リスク低下方法、⑨社会・経済活動への影響、⑩新型インフルエンザの企業への影響、⑪家庭における流行に備えた準備、⑫感染予防に必要な保護具と衛生用品についてお話いただきました。

参加者からは、①病院の医療関係者への教育はどうなっているのか、②サージカルマスクはどう違うのか、市販されているか、③受験者は試験を受けることができるのか等の質問がありましたが、的確に答弁をいただき、時間となりましたので研修会を終了しました。

